

平成 28 年 4 月 30 日

ベガルタ仙台と協働する健康への取組について

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

機構長 山本 雅之

東北大学東北メディカル・メガバンク機構は、東日本大震災後の宮城県民の健康を守るため、数々の事業に取り組んできました。この度、更なる健康向上支援に取り組んでいくため、東北においてスポーツ振興を通じた復興に取り組んでいる、プロサッカーチーム「ベガルタ仙台」様と協力することを決定しました。共に事業に取り組むことで被災地における健康への取組を加速させていきたいと考えています。

【今後取り組む具体的な事案】

1 健康教室の共同開催

Jリーグが主導し各チームが取り組んできた「介護予防教室」事業の理念に賛同し、年間7-10回を共同開催として取り組みます。

開催にあたっては、当機構から医師による健康講話などを、ベガルタ仙台が提供するプログラム（チアリーダーやスクールコーチによる運動教室）に加えて行います。

本事業は、既に以下の日程で試験的に実施し、これまでの開催を上回るような参加を得ることができました。

3月23日 仙台 約30名の参加を得て開催

3月25日 石巻 約30名の参加を得て開催

今後、県内7ヶ所に設置の当機構の拠点（地域支援センター）がある地区を中心に開催を検討しています。

また、上記以外にも、当機構と共に、県民の健康に資する教室や、広くスポーツや健康への興味関心を喚起する取組を開催します。

2 イベントの相互協力開催

当機構が主催・後援などを行うイベントにおいて、球団の関係者の出演などを依頼します。

具体的な予定） ・5月1日に 化女沼 古代の里（大崎市）にて、ベガッ太と子どもたちとの交流イベントを開催

【参考】

東北大学東北メディカル・メガバンク機構について

東北大学東北メディカル・メガバンク機構は、東日本大震災からの復興事業に取り組んでいます。宮城県と岩手県で15万人を対象とした詳細な健康調査を、パートナーの岩手医科大学と共に行い、既に、総計13万人を超える方々にご協力頂きました。

この調査は、まず、震災が中長期的にどのように健康に影響を及ぼしているかを調べ、参加された皆さまに結果をお返しします。そして、健康調査を通じてご提供いただいた血液や遺伝情報、生活習慣情報などを、未来の医療に役立てる研究を行っています。

現在までの調査結果として、沿岸部被災地において、胃がんの原因となるヘリコバクター・ピロリ菌への感染は内陸部と比べて大きな差は見られないこと、一方、メンタルヘルス面では、内陸部と比べて沿岸部で懸念が大きいことなどが明らかになっています。

現在、妊婦さんを中心に、パートナーの方をはじめそのご家族にご協力をお願いする「三世代コホート調査」の受付を行っています。震災後の東北を、より健康な地域にするために、ご家族揃ってのご参加をお願いしています。

参考)

東北大学東北メディカル・メガバンク機構ウェブサイト

<http://www.megabank.tohoku.ac.jp/>

三世代コホートウェブサイト

<http://www.megabank.tohoku.ac.jp/3gen/>

(問い合わせ先)

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

長神 風二 (ながみ ふうじ)

電話番号：022-717-7908

ファックス：022-717-7923

Eメール：f-nagami@med.tohoku.ac.jp

以上